

国内最大級の自航式ケーブル敷設船の建造契約を締結



建造契約書にサインした大林社長（左）と Torgeir Haugan 上級副社長

東洋建設株式会社（代表取締役社長 大林 東壽、東京都千代田区）は、12月11日、ノルウェーの Vard Group AS*（CEO Alberto Maestrini）と自航式ケーブル敷設船の建造契約を締結しましたのでお知らせします。

洋上風力発電は着床式を中心に順調に案件形成が進捗しており、更に浮体式の技術開発や EEZ 拡大検討なども進めつつ、政府目標である 2050 年カーボンニュートラル実現に向けて着実に進展しています。

このように我が国の洋上風力発電建設市場の成長が大きく期待されるなか、当社は 2022 年 2 月 28 日に自航式ケーブル敷設船建造について発表し、その後基本設計、詳細設計を進め、去る 12 月 8 日の取締役会において建造することを決定いたしました。

自航式ケーブル敷設船の調印式は、12 月 11 日 18 時から東洋建設本社において開催し、当社から大林東壽代表取締役社長、発注先の Vard 社から Torgeir Haugan 上級副社長が出席し、契約書にサインしました。

当社が建造する自航式ケーブル敷設船は、国内の自然条件および施工条件に適合するために最適な船体設計を行うことで、水深の浅い海域から浮体式洋上風力発電や直流送電事業を対象とする大水深海域までの広い海域において、高い稼働率での施工が可能です。また、本船は自航式ケーブル敷設船として活躍するとともに、高性能クレーンと広いデッキ面積によって、着床式基礎工事、浮体式洋上風力係留工事等の多目的な分野に適合することができます。

主な仕様	総トン数約 19,000 t、推進出力約 13,000kw、DPS Class2、船級 Class NK
	宿泊 90 名（全室個室、シャワー・トイレ完備）
船体主要寸法	全長 150m×幅 28m×深さ 12m 最大喫水 7.0m
ケーブルタンク	容量 9,000t（可搬式含む）
主/副クレーン	250t/100t 吊級（動揺低減機能付）
その他設備	ヘリデッキ、4 点係留装置（浅海域施工時）、2×ROV システム、バッテリー蓄電システム
投資金額	約 300 億円
資金調達	自己資金及び銀行借入（※グリーンローンを予定）

※ 詳細はこちらをご覧ください。

<https://www.toyo-const.co.jp/wp/wp-content/uploads/2023/12/20231208-2.pdf>

12 月 8 日には、日本とノルウェーの両国政府が脱炭素技術で協力する「グリーン戦略パートナーシップ」に署名しており、今回の自航式ケーブル敷設船の建造をノルウェーの Vard 社に発注したことは、このパートナーシップへの貢献につながるものと考えています。

さらに、当社は 2024 年 4 月 1 日付で洋上風力事業本部を新設することも発表しました。

当社は、洋上風力事業本部のもと、自航式ケーブル敷設船に加え、エンジニアリング力を更に強化し海底ケーブルの敷設事業に参画するとともに、着床式・浮体式双方の様々な分野で我が国の洋上風力発電事業の発展に貢献します。

Vard Group AS*：世界最大級の造船グループである Fincantieri グループの一員であり、ノルウェー、ルーマニア、ブラジル、ベトナムに造船所を有し、多数のケーブル敷設船をはじめとしたオフショア船の設計・建造実績を有しています。

以 上



ケーブル敷設船のイメージ

問い合わせ先
東洋建設株式会社
土木事業本部洋上風力部
電 話 03-6361-5462